

令和４年度 第２回那覇市IT戦略会議

日時：令和４年９月２７日（火）

場所：那覇市役所本庁舎 ９階会議室

稲垣議長 では、これより『那覇市IT戦略会議』の第２回会議を始めます。審議に先立ちまして、本日の会議を公開することについて皆様に報告します。本日の会議の内容には、個人情報に関するものや、公開することにより公正さが阻害される内容は含まれませんので、公開としております。公開手法についてはオンラインで配信しております。本日は、はじめに事務局より、那覇市DX推進計画の骨子案について説明があった後に、取組事項について議論を行う予定です。委員の皆様におかれましては、これまでの経験や知見から忌憚のない意見をいただければと存じます。それでは次第に沿って進めてまいります。次第の２について事務局から説明願います。

事務局 事務局を務めます那覇市DX推進室の又吉と申します。議論の前に、今回の計画骨子案について説明を行ってまいります。時間にしまして２５分程度いただきたいと考えております。説明します骨子案については、計画の方向性を示したものになります。これまでの庁内検討部会での議論、職員との意見交換、本審議会での議論を踏まえ、案として取りまとめたものになります。今回説明する内容については、決定版ではなく、あくまで計画全体のイメージをつかむための現時点における概要になっております。この後の議論を踏まえ、修正や追記を重ね整理し、１０月下旬から１１月初旬にかけて計画の方向性として確定していきたいと考えております。それでは資料に沿って説明してまいります。

事務局から骨子案について説明（＊説明内容は省略）

稲垣議長 はい、説明ありがとうございました。続きまして取組事項について説明をお願いします。

事務局 事務局を務めますNTTデータ経営研究所の高橋より取組事項について説明申し上げます。本日の論点ですが、今後、那覇市がDXにおいてどういったことに取り組んでいけばよいのかご議論いただきたいと思います。

事務局から取組事項について説明（＊説明内容は省略）

稲垣議長 はい、どうもありがとうございました。只今、事務局より、現時点での那覇市DX推進計画の骨子案について説明いただき、確認させていただきました。また、その中で本日議論する「職

員の視点」及び「市民・事業者の視点」からの取組事項の方向性、取組により実現したい項目と具体的な取組事項について、整理された内容を説明いただきました。ここからは、取組事項の内容について、妥当であるかどうか、不足がないかということにある程度絞ったご発言をいただきたいと思います。それでは、どなたか発言したい方がいらっしゃれば挙手をお願いします。

それでは、若宮さんよろしくお願いします。

若宮委員 若宮でございます。まずは、地域住民の方に同意を得て協力していただくことは大事ですが、今回の内容で欠けていると感じるのは経済効果の観点だと思います。今回のようなプロジェクトを計画する時に外国の場合は、合理化によって使わなくなった無駄なお金が、プロジェクト全体の開発費用を何年かけて償却でき、いずれは市の財政に寄与するといった経済効果の視点を入れて検討します。例えば、余ったお金によって、「循環バスの回数を減らさなくて済む」であったり、「学校の給食センターの施設の改造に活用できる」といった経済効果を検討します。市民は市民税を払っている納税者であるからこそ、お金の話は必要だと思います。ただ、この経済効果の観点では、市政の透明化が要求されるので、これについて明確な方針を明示する必要があると思います。

次に、今回の審議会に係る事務手続きについては、とても丁寧に実施いただけてますが、市の手続きは紙でやり取りする機会がとても多いと感じます。このような事務手続きや細則はデジタル化に適したものに直す必要があり、そもそも、条例を策定する段階においても、デジタル化に適した内容となるように検討することも必要だと思います。

稲垣議長 若宮委員ありがとうございました。只今、若宮委員からは経済効果に関することとその他お気づきになった点についてご指摘いただきましたが、議論を集中させるという意味で、今のテーマに関連してご発言される方がいればお願いします。特になければ、事務局の方から経済効果、その他について、現時点においてどのような考えでいるか追加の説明をお願いします。

事務局 はい、ありがとうございます。那覇市DX推進室の又吉です。経済効果を明確に示したほうが良いというご意見については、今の段階において、各々の事業がどのような経済効果を出せるのか明確に示すことは難しいという印象を受けており、大きな方向性をこの計画で示し、それに紐づく事業が見えてきた段階であれば、その事業に投資して、産業・経済に与える効果を分析することは可能かと思います。しかしながら、いただいたご意見を踏まえ、計画の中でどのような経済効果を出せるのか検討してまいりたいと思います。

稲垣議長 他の計画や事務手続きの関連で、この計画の中に書き辛い面があるのかもしれませんが、全く経済効果のことを抜きにして議論するのではなく、今の「骨子案」の中に、「経済効果も狙う」とか「経済性の高い」といった方向性を示す表現であれば、ある程度盛り込むことが可能かと思いますので、検討していただければと思います。その他の委員の方からもご意見があればお願いします。

中島委員お願いします。

中島委員 若宮委員のご指摘の通り、経済効果については項目に入れておくべきで、経済効果を測定する手法を取り入れたほうが良いと思います。

稲垣議長 経済効果については、結果として効果を測定するという以前に、目的の一部分として取り入れられないか検討をお願いします。他にご意見のある方がいればお願いします。

常盤木委員 沖縄のIT番長「トッキー」こと常盤木でございます。現在、25団体・企業でDX推進を手掛けており、プロジェクト数でいうと220件ほどあります。経済効果については表現の仕方だとは思いますが、個人的にはKGI的な行動指数目標をどういうアクションを何本打つかという方向性で示せばよいと考えています。これは、達成することを目的にするというよりは、例えば、行政に携わっている職員の事務処理手続きが30%削減されることであったり、市民が窓口の手続きでかかっている時間が年間あたり60分程度削減できることみたいに、私達が目指したい姿を描き、その妥当性を定期的に評価しながら指数を調整していくような言い方をしても良いのではないかと思います。予算面の部分というより、それによって得られる市民サービスの部分と行政職員の両方における定量的な目標指数で良いと思います。これはチャレンジングな目標ではありますが、実際のところ他の市町村の計画を見ても、デジタル庁や総務省の資料と似たり寄ったりで、今回の那覇市の骨子案もそのような印象を持っているので、理念や目標的なものはこの計画の全体策定フェーズの中でどこに入れるのかは別として、最終的なアウトプットの中では、何をどのように変革していきたいのか数値的なメジャーは必要になると考えています。

稲垣議長 はい、どうもありがとうございました。若宮委員の意見にありましたお金に換算した数値・表現だけでなく、効率化などもっと幅広く数値による表現が必要ではないかと理解しました。

島袋副議長はこれまでの議論を踏まえいかがお考えでしょうか。

島袋副議長 経済効果の観点はもつともで、市民視点という意味では納税者という立場から何かしらの指標はあったほうが良いと思います。また、職員の意識を変える、市民の意識を変えることが一番難しい取り組みであり、その取り組みに結び付く指標の設計も今後必要となってくると考えています。

稲垣議長 先ほど事務局からは、取組事項を目的別に2分類して、それぞれ方向性を3分類して、具体的な取組事項までを整理して説明をいただきました。ここから当然先に数値的な目標は出てくるのであろうと推察されます。しかし、取組により実現したいことの枠の中で、もう少し修飾語や形容詞を入れて、この先のK G I 的なところに落とし込みやすいような入り口をもう少し表現できたら良いと思います。ここまでの議論に対して事務局としての考えはいかがでしょうか。

事務局 はい、ありがとうございます。議長がおっしゃったとおり、取組の方向性の先にはそれに紐づくアクションプランを設定していく予定です。この中でK P I ・ K G I をどのように設定していくか今後議論をしてみたいと考えております。K G I の設定方法についてはいろんな手法があると認識しておりますが、この点についてN T Tデータ経営研究所の高橋さんより考えを説明いただきたいと思います。

稲垣議長 はい、それではN T Tデータ経営研究所の高橋さんよりご説明をお願いします。

事務局 はい、N T Tデータ経営研究所の高橋です。今、那覇市の又吉さんからご説明をいただきましたが、今回挙げている取組のさらにその下に個々のアクションプランを策定していく予定です。そのアクションプランの中では、それぞれの取り組みがどういった成果を創出するものなのか明確にK G I として示すということは当初より想定しており、また、その取り組みによって中間成果がどういったものが創出されるかK P I で定めることも考えています。今、又吉さんが説明いただいたことがその部分となります。ただ、同時に今回ご指摘いただいたのは、個々の取組としてどうだということ以上に、もっと大局的な観点において、那覇市のD Xがどういった効果の創出を求めるものなのか、それを経済的にであれ、効果の側面であれ、何かしら明確な目標を掲げたほうが良く、それによって住民に妥当性の評価を受けられる形にするべきだというご意見だと認識しておりますので、このご指摘内容と整合性が持てるような形で検討を進めていきたいと思っています。

稲垣議長 どうもありがとうございました。常盤木委員は、今の事務局の追加説明に対して何か意見がございますか。

常盤木委員　市民側からしてみると、デジタル化のステップで言う「デジタイゼーション」「デジタルライゼーション」「デジタル・トランスフォーメーション」のどのステップを5ケ年の計画のどの領域で目指していくのかとか、現実の浸透状況とか表現しても良いと思います。分かりやすく言うと、表現の仕方を内向けと外向けで大きく変えてしまってもよいと思います。外向けの部分で言うと、他市に先駆けてこの領域においてリーディングしていきたい、ないしは、人材や現在お付き合いのあるベンダーや内部リソースを考えた時に、那覇市がどこでリードしていくべきかという思いを持っている方がいらっしゃれば、その思いは取り込んでいくべきだと思います。要は、現状、誰が書いたのか分からない那覇市という主語がいないクローンみたいな資料となっているので、これに関しては明確な色がないとこの会議体自体の意味がないと思っています。

稲垣議長　はい、ありがとうございました。DXの定義については「骨子案」の中でデジタル技術を活用した変革として定義されていますが、今の常盤木委員のご指摘のとおり、単なるデジタイゼーションからもう少し本格的なデジタイゼーション、そして、組織全体の根本的な変革までもたらすデジタル・トランスフォーメーションといった世の中的にはレベルを3段階に分けて議論することが多いので、そういった視点から計画の理解ができるような表現があると良いのではないかと思います。続いて、島田委員と福島委員からご発言をお願いしたいと思います。今のテーマの続きでも結構ですし、話題を変えてご発言いただいても結構です。

それでは島田委員をお願いします。

島田委員　はい、ありがとうございます。経済効果のテーマから離れ、話題を変えて発言いたします。私は、プレゼンいただいた内容自体はすごくよく構成されていると感じたので、まず冒頭にそのことをお伝えしたいと思います。前回もお伝えしましたが、市のこと、市民の皆様のことを考える以前に職員の方のことを考えている内容は他になかなかないと思っているので、それをしっかり議論されているところは非常に評価したいと思います。また、又吉さんの発言にありましたがDXは手段だということも繰り返し認識されているところも大変素晴らしいと感じています。特に職員の方の目線、市民・事業者の目線ということで二つの取組に分けていて、大きな項目としてはとても良いと思いました。

その次の項目のところで気づいた点を少しお話したいと思います。特に私の場合は、私のバックグラウンドからも職員の方の取組に対して、非常に関心がありますし、それが肝だと思っておりますので、そちらへの発言が多くなります。まず、「職員の意識を変える」というところからスタートしていることは非常に素晴らしいと感じました。本日の会議の中で、「意識を変えることは難しい」という発言もございましたが、「意識を変えることが難しいという意識を変えること」ができれば良いと思います。今の意識がどのようなもので、それをどんな風に変えたいのか問うことをもう少し具体的に決めたり、表現できたりすると良いと思います。

NowとTo-beみたいな感じで、例えば、意識を変えることは難しいという意識や、ミーティングはリアルでないとコミュニケーション取れないといった意識など、固定された意識がどんな風だったら良いのかといった内容がもう少しここに含まれると、誰が見てもまずそこから始めるんだということがより明確になると思います。この点においても、私の専門分野でもありますのでお声掛けいただければサポートさせていただきます。

二つ目の「業務の仕方」というところですが、意識が変わるので、もちろん業務の仕方也会変わりますし、ひいては働き方も変わるという流れだと理解しています。業務の仕方の中に幾つもあるデジタル化の取組の中で、行政の捺印のプロセスをシステム化する取り組みを始めるだけでも、行政の仕事のやり方が劇的に変わるのではないかと思います。

もう一つがデジタルの推進に必要な人材像の話がありますが、スキルだけでなくマインドというところをしっかりと書いているところは素晴らしいと思います。私の考えとして、ある意味提案となりますが、DX人材という表現がよくなされますが、むしろ「DX推進人材」と言い換えてはどうかと思いました。今日の説明では那覇市はそのところをしっかりと捉えられていると感じています。デジタル人材という表現だと、スキル面に意識し始めてしまいがちとなりますが、そうではなくてこの資料に書いているように、デジタルの推進には、今、デジタルのスキル経験がなかったとしても、全体像を捉えて推進できるであったり、思い込みに関わらず新しい意見を聞きながらアンラーンできるであったり、全員のことを把握しながらインクルーシブにできる、そういったマインドやスキルが必要となってくると思うので、そのあたりも考えながら取り組んでいるということいい意味でアピールできるのではないかと思います。そういった意味において、DX推進人材という表現がふさわしいのではないかと考えます。

稲垣議長

はい、ありがとうございます。大変大事なご意見ではあるが大変難しいご意見でもあり、意識改革が必要でどういった意識をどのように変えるのかというお話がございました。これは、現状において行政の職員のご担当の皆様を意識面でどういった問題があるのか、問題を発見して望ましい方向に解決していくといったことになると思いますが、具体的に資料に書き込むと難しい要素もあると思いますが、何かこれももう少し方向性が示せるような言葉が足されると良いと思いました。人材については今後議論が集中して出てくるとは思いますが、今の島田委員のご意見について、事務局からコメントがあればお願いします。

事務局

はい、ありがとうございます。DXを全庁的に進めていく上で、職員ひとり一人の意識を変えていくことはすごく大事なことでと考えています。どれだけ取組を推進したり強制力を持ってやったとしても、人間の性質上、元に戻ってしまう気がしております。取組を継続してやっていかないと改革のマインドが元に戻ってしまう傾向があると思いますので、意識を変えるとともにDXを組織に浸透させるための工夫が必要であると考えています。その工夫は現時点において見出せていない状況ですが、この計画で

決まったことを行政運営のサイクルに何かしら落とし込めないかと考えています。例えば、予算要求や組織要求のタイミングを考慮した取組みの検討が必要だと考えています。意識を変えると一言で言うとは簡単ですが、すごく難しい課題だと捉えています。今、委員の皆様から頂いたご意見はそれぞれ非常に大事なことです、これらを並行してやっていく難しさも感じているので、一つずつ整理し、深掘したうえで検討を進めていきたいと考えております。

稲垣議長 今の議論の中で整理しておきたいのが、ITやDXに対する意識を変革するという部分とそもそも行政マンとして意識を変革するという二つの視点があると思いますので、それらを混同しないように表現いただきたいと思います。

それではこのテーマはいったん終了し、福島委員からご意見をいただきたいと思います。

福島委員 はい、ありがとうございます。那覇市DX推進計画の骨子案を拝見し、未だ作成途中とはいえ、職員に向けた視点、市民・事業者に向けた視点ということで分かりやすくまとめられており、特に市民向けの取組は手厚く検討されていることは素晴らしいと感じました。本日は、この取組事項に対しての議論ということになっておりますので、それについて感じたこと気づいたことを発言したいと思います。まず、デジタル人材育成のところですが、これはDXを推進するうえで非常に重要な取組で、先ほど継続して実施するための工夫がいるという話の中でも出てきましたが、DXを継続するためには人材が常に育って行って、若い職員から年配の職員も含めて更新されていくことが必要だと思います。そういった中で、推進のリーダーとなる方とそうでない方向けの育成方針は違うと思っています。また、リーダーとなる方は那覇市のDX化を全庁的に推進し、自分たちの業務でDXを活用し、どう変革させ、どうしたら市民のためになるのかを考える役割を担うと考えています。その時に大事だと思うことは、事実を含めてオープンであることだと思います。DXはデジタルツールを扱うこともあって、ある特定のベンダーのツールを勉強しがちとなりますが、リーダーとなる方はそうであってはならず、様々なベンダーが扱うデジタルツールについて理解をしておく必要があります、なぜそういったことが必要であるかといったマインドの部分も育成しておく必要があると思います。DXを推進する上では、ある一部のベンダーに統一しようとするものでもなく、状況に応じてそれぞれの領域で得意とするベンダーがあると思いますので、リーダーとなる方はそのことを理解しておく必要があると思います。

「那覇市DX推進官民フォーラム（仮称）」については、定義をしっかりとっておく必要があると考えています。ご意見いただきありがとうございますのレベルに留めるのか、いただいたご意見を踏まえ、さらにしっかり議論されていくレベルのものにするのかなど、フォーラム参加者のモチベーションにもつながりますので、フォーラムで議論したことは、ここまでの重要度で諮られていくんだということを計画の中で定義されてはどうかと思います。

最後に、市民・事業者視点の「安心・信頼できるための取組」は、便利さを実感できるところや共にまちをつくるところにもつながってくることだと考えています。マイナンバーカードのように安心・信頼できないからいろんなD Xのツールを使いたくないといった意見が出てくるように、安心・信頼できることを情報発信することも大事であると思います。前回も話したかもしれませんが、安心・信頼の取組だけに限らず、せっかくこのような良い取り組みを市民が何も知らなければ、共にまちをつくることも不可能なことになってしまいますし、市民が見ているという意識が職員のモチベーションを変え、お互いが相乗効果を生むことにもつながると思いますので、この情報発信という取り組みを計画の中でどのように行っていくのかも合わせて検討いただくと良いと思います。

稲垣議長

はい、ありがとうございました。福島さんから3点ご指摘をいただきました。一つ目は次回以降にも議論されますデジタル人材育成の話がありました。人材育成が大事であるということは、本日のD X推進計画の骨子案では6番目の大項目で取り上げられており、かなり力を入れていることが書かれておりますが、本日の取組事項の説明では、人材育成に関する内容が各項目に散在しているので、取組事項の中でデジタル人材に関する内容について印をつけるとか別枠にするとか、見せ方を少し工夫をしていただくと、デジタル人材に注力していることをわかりやすく表現できると思いますので次回までに検討いただきたいと思います。

続いて、フォーラムに関する位置づけ及び手法についてのご意見がありました。さらに市民コミュニケーションの重要性のご意見がありましたが、よくあるのが、アリバイ的もしくは言い訳的にこのメディアに出てますとかHPに掲載してますとか回答されますが、それを見ない市民はどうなるのかという話になってしまうので、市民が関心を持たざるを得ないような仕組みを作って、そこで市の取組が市民に自然に伝搬していく戦略的なコミュニケーションが必要だと思いました。

先ほど、中島さんに分野特定で発言いただきましたので、それ以外でご意見を伺いたと思います。

中島委員

まず、この骨子案の中にD Xの推進により実現を目指す那覇市の姿があり、取り組んでいきたい具体的なテーマが書いてありますが、その中で私が不足していると感じているのは、例えば、多様でエコな取組が移動手段に限定されてしまっている点が残念だと感じています。先ほど、常盤木委員の発言にもありましたが、今の計画は那覇市としての特徴がなく、最大公約数的に取りまとめられているからだと思いますが、この多様でエコな取組においては、エコなエネルギーにするための取組や観光都市であるが故の課題である飲食店や宿泊施設から大量にでるフードロス、廃棄物をどうするのかといった那覇市が取り組むべき重要なテーマが含まれてくると思います。エコな、広い意味でのSDG S的な観点において、エネルギー、ごみ処理、フードロス、子どもの貧困という特に那覇市にとっては非常に大きな課題に対して、D Xを通

じて那覇市が解決を目指す未来の目的のテーマとして入れておいていただくと、那覇市のDXの方向性が定まってくるのではないかと感じています。そのためには、那覇市の課題は何なのかということ抽出するような作業過程が必要だと思います。また、行政が気が付かない課題もあると思いますので、情報発信も重要ですが、情報を吸い上げていくためのパイプの検討もしていただきたいと思います。

稲垣議長 はい、ありがとうございました。DXの推進により実現を目指す那覇市の未来において、8つの創出したい価値が書かれてあり、それは特徴的なものを記載いただいているのだと思いますが、もうちょっと網羅的にこぼれているものがないのかも一度整理していただくと良いと思います。いずれにせよ、中島委員がおっしゃっているのは、多様性とエコは非常に重要な時代のニーズでありますから、分野を限定せずにもう少し強調できるような書き方が必要ではないかという内容のご意見でした。それでは続きまして、中島さんと同じように分野特定で発言いただきました島袋副議長にご意見を伺いたいと思います。

島袋副議長 中島委員からもありましたが那覇が将来何をを目指すのかという点において、県都の那覇は人・物・情報が集中し、官公庁があり、商売の中心であり、古都といった側面もあり、住民目線で言うと定住している住民だけでなく、観光で交流している方も住民として扱う必要があると思います。DXによって住民サービスが便利になるところもありますが、観光客に対しても何かを提供できるといった意味において、那覇らしさがあると思います。沖縄に来る際は那覇を中継して、やんばるや先島諸島へ観光客が移動するわけですから、まずは那覇市には立ち寄ってもらうことの利便性も含めて考えていくことも必要であり、交流人口を外してこの計画を考えることは難しいと思いました。

稲垣議長 はい、ありがとうございました。那覇市民のための行政ではありますが訪問者の視点を取り入れることによって、新たな気づき新たな那覇らしさが立ち上がってくる可能性があるということをおもいました。私も一言だけ申し上げますと、本日の議論の取組事項の6つの方向性の中で、先ほど常盤木委員の後半部分の発言と重なりますが、あるいは、中島委員からも島袋副議長からもご指摘があった「那覇らしさ」をどう色濃く出していくのかということについて、私も必要だと感じています。取組事項の6つの方向性を見ますと、1番から5番についてはなかなか特徴が出し辛いように思えます。那覇市が全国の他の都市と違うところが何かと言ったときに、大綱挽があります、世界遺産があります、織染がありますと言ったところで、全国の中で沖縄を浮かび上がらせる以上に那覇市らしさとしては大変難しいテーマだと思います。私は30年間那覇に関わってきて、この6つの中では「共にまちをつくる」ための取組がとてもの那覇らしさを感じる部分です。他の都市と違うな、やはり那覇市はいつも市民を巻き込んでやっているなという印象として残っています。個人的な意見ではありますが「共にまちをつくる」

ための取組がもう少しパワーが込められた状態で表現されるとより那覇らしさがうまく出せるのではないかと感じています。それでは追加の意見を伺いたいと思います。

若宮委員お願いします。

若宮委員 おっしゃる通りだと思います。那覇市ならではの内容をもう少し基本的な考え方に盛り込んだほうが良いと思います。今の資料は全国区どこでも通用する内容が多く、やはり那覇の特徴を活かしたDX化をやっていることを表面に出した方が良いと思います。例えば、多言語に対応できるとかあるいはキャッシュレスを促進するとか、どこまで具体的に書くかは別としてもうちちょっと何か那覇らしさを出したほうが良いと思いました。

稲垣議長 はい、ありがとうございました。続いて、島田委員お願いします。

島田委員 はい、ありがとうございます。私は議長に質問があったのですが、今の話の中でご自身が30年近く那覇に関わって那覇市らしさについて、市民の方を巻き込んでいることだと感じたのはどんなものを見たり聞いたり体験したりして感じたのかお伺いしたいです。

稲垣議長 たくさんある中で、一つご紹介しますと、既に終了していますが那覇市NPO活動支援基金というものがありました。これは特定非営利活動促進法の法律が制定された翌年に全国に先駆けて作られた基金で、6000万の予算を信託銀行に公益信託して、運営委員会が運用する形で年間300万×20年の目安で行い、新しく雨後の筍のように出てきたNPO法人をたくさん支援することができました。国の資金を基金に入れたり、運用したり、10周年で2倍の予算をつけたり、通常の行政ではできないような市民巻き込み型の活動を行い、私も19年のうち17年間関わらせていただきました。これを全国に先駆けて那覇市が実施したので、県内の各市町村、全国に広がっていくと良いなと思いましたが、皆さん視察には訪れるもののなかなか同じ形で広がることはありませんでした。他の市町村、都道府県がやっていることを真似ではなくて那覇市のオリジナルの施策で、たまたま私の関わりが深かったものの中からイメージして発言させていただいた次第です。

島田委員 はい、ありがとうございます。大変参考となりました。

稲垣議長 はい、他に追加で説明したい方がいらっしゃいますか。常盤木委員何かありますか。

常盤木委員 Twitterでマイクロソフトのカリスマ・エバンジェリスト西脇さんという方がマイナンバーカードについて、次のようなツイートをしていました。「マイナンバーカードを普及させようと一所懸命なのは分かるけど、先にマイナンバーカードのメリット（利便性向上）が生

まれる仕組みをもっと普及させた方がいいんじゃないかと思います。 メリット(利便性向上)が溢れるほどあれば自然に広がると思うんだけどな。そっちを優先してほしい。」これは見出しとしてはマイナンバーカードのことを言っていますが、DXやデジタル化の基本はこれに尽きると思います。要は、市民もそうなんですが、彼らがやりたいと思う究極の動機設定を目指すみたいな意思表示をしても良いと思っており、その動機設定を行うための要素は二つあると思っています。それは心理的安全性とオーナーシップで、その教育を職員に対し徹底してやるべきだと考えています。特にこのオーナーシップは、自分がただスキルを使いこなすだけでなく、その方法論を他の人に使える状態まで誘導できるレベル4からレベル6までの状態へどうやって上げていくかということに対して、各位が自分の得意領域におけるデジタル化の伝道師になれるような認定制度みたいなものを作っても良いのではないかと考えています。

もう一つが本日の議論を見ていて、島田委員のコミュニケーションの取り方がさすがだなと思ったのが、最初に持ち上げてから本質的な課題を伝えるみたいな議論の展開と広がりが生み出しやすいコミュニケーションの取り方は、デジタル化の中では結構見落としがちな観点だと思います。デジタル化のステップでペーパーレスの次に出てくるレベル2の基本がコミュニケーションです。沖縄の各市町村と議論する時もこのあたりが結構ないがしろになってしまっていて、ペーパーレスを入れてしまった後が、いきなり台帳系の話とかへビーな話になってしまい、誰も意見を言わなくなるような状態となりがちでした。市民と市役所のコミュニケーション、市役所の中でのコミュニケーション、市民自体が何か業務改善ができるなど優しさや柔らかさが伝わるいわゆるウチナーらしいゆいまーな部分がうまくニュアンスとして入ると、資料を最初にパッと見た時にそのメッセージがあると嬉しいなと思いました。

稲垣議長

その他発言をしたい方がいらっしゃればお願いします。なければ、時間も1時間半に近づいておりますので、ここまでのところで事務局から本日の議論について全体的に何かお話いただけることがあればお願いします。

事務局

はい、ありがとうございます。那覇市DX推進室の又吉です。いろいろなご意見をいただきましてありがとうございます。事務局としても感じているのがやはり那覇らしさをどういうふうに表現してするのか、それを計画にどうつなげていくのか課題感を持って進めています。この将来の構想とか那覇市らしさというところは、那覇市の職員向け研修の中で議論していきまして、その中でキーワードとして出てきたのが、那覇は寛容性があるといった意見が多くありました。この寛容性というキーワードは、琉球王朝時代から受け継がれてきて、そういったものを全面に出していくのもいいのではないかと考えています。この寛容性から波及する地域の特色というものを研究しまして、それをどういうふうにDXの計画へ落とし込んでいくのかは、課題としてあります。一方で文字面を並べても現実的なものでないと計画の実効性を担保できないた

め、このあたりのバランスを取りながら一步でも進めていけるような計画でありたいという印象を持っています。

稲垣議長 寛容性は那覇市の大きな魅力だと私も思いますが、寛容性というのが那覇市を特徴付けて魅力を大きく感じさせるワードになるのかどうか。それができれば日本社会、人類社会全体にとって素晴らしいことなのですが、寛容性の那覇市ですと言っても、それがすぐ3年計画、5年計画の魅力につながりにくいところがあるので、少し言葉を変えて、寛容性があるからこんなチャレンジをするんですといったもうちょっと具体的で前向きな言葉で表現化することで少し可能性が出てくると思いました。

常盤木委員 ソーシャル・リスニングなどを使ってみても良いと思います。いわゆるT w i t t e rなどで出ているイメージキーワードの中で、那覇に対して市民や観光客が感じているのかということとをそれぞれの分類でどういったメッセージングでやり取りしているのか、ソーシャル・リスニングを行い、その中から拾い上げて、みんなにとって妥当性のあるキーワードを抽出しても良いかと思いました。

稲垣議長 この議論の続きは次の機会ということで、事務局のほうにも整理をいただきたいと思います。一つだけ最後追加させてもらいたいことが、本日、夢を語る部分はだいぶ議論ができたと思います。

ただ、DXには負の側面もあると思います。例えばサイバーセキュリティとか釘を刺しておく部分が少ないと思いましたので、その辺も目配せできているといった表現も入れれば良いと思いました。それでは時間となりましたので本日の議論は以上としたいと思います。委員の皆さん忌憚のない意見をありがとうございました。閉会前に事務局より緒連絡がございますので、事務局からよろしくお願いします。

事務局 はい、那覇市DX推進室の又吉です。本日は貴重なご意見ありがとうございました。次回の開催は11月14日で設定しております。近くになりましたら開催の案内をいたしますのでよろしくお願いいたします。

稲垣議長 では、皆さん次回を楽しみにしておりますのでよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。